



ホ 2  
452



門利 2  
452  
卷

藏書

序

あゝまゝと云天思大に神大己貴等小告終

明治八年八月六日 醍醐 皇贈

印

東京市立  
立教女子  
大学

を以て白

人 念道善命報名親子倫元因心  
顯煉子刃君主輩位臣私盜勿累甲  
島釋女替蟻績織家饒榮理眞照法  
守進惡攻撰欲我刪

大己貴等天八意等と意と同一是言とて  
神代の文字とて了終の甲乙字を別とす乃

491



さうりそをいひ終りし語つ携へ楊あり  
のち也終りぬ

寛政九年丁丑 宛書 如景日

越加治古川

好態館 偶流



傳名考 抄(千本)

凡和歌傳終りし語つ携へ楊あり  
傳へうし終りし語つ携へ楊あり  
先哲を伝へる先と直はし一伝ありわまきんら  
た傳ふ後て其の終りし語つ携へ楊あり  
中と終りし語つ携へ楊あり  
其旨と其の便りありし語つ携へ楊あり  
みまし一書伝名考五十字母五音望橋の連



Handwritten text on the right edge of the page.

Main body of handwritten text on the right page, appearing as a list or series of entries.

Main body of handwritten text on the left page, including a red square seal at the top and a red square seal with a cross in the middle.







歩みだれに五月雨と半ばとありて一かたねと五  
のさか月のさか雨のさかありてはなれと仮名を働と  
いふ一自解の准してはなれとありて

古き事と文とを熟讀して其の分別を知る一

書はさかたなれと書はなれとありてはなれとありて

仮名もやとありてはなれとありてはなれとありて

仮名も古き事と法とありてはなれとありてはなれとありて

假名にて推せる事とありてはなれとありてはなれとありて

書はなれとありてはなれとありてはなれとありて

淡海 アハタミ  
シホキキ アハキガミ  
ト云フコトナリ

假名遣捷徑

蓮二下坊 撰  
博和坊再校



仮名とつとつハ假書名之誤也言ハ古文ハ書名と

ありてはなれとありてはなれとありてはなれとありて

付書はなれとありてはなれとありてはなれとありて

ありてはなれとありてはなれとありてはなれとありて

ありてはなれとありてはなれとありてはなれとありて

ありてはなれとありてはなれとありてはなれとありて

ありてはなれとありてはなれとありてはなれとありて

しひおこまぬ

端のい 中のひ 奥のお

れを端のいの中を奥ひとすは返名のつらは返名のつら  
字のつらひを返名のつらひ中の返名終り返名は返名  
端のい中の返名とすは返名あり

しひへ急こまぬ

端のい 中のひ 奥のお

れを端のいの中を奥ひとすは返名のつらは返名のつら  
字のつらひを返名のつらひ中の返名終り返名は返名  
端のい中の返名とすは返名あり

しどほれこまぬ

端のい 中のひ 奥のお

れを端のいの中を奥ひとすは返名のつらは返名のつら  
字のつらひを返名のつらひ中の返名終り返名は返名  
端のい中の返名とすは返名あり

端のい 伊己夷意 異以怡

しひおこまぬ

しひおこまぬ

端のい 伊己夷意 異以怡

いうつら雷い急家いうさ藩いん岩いさし藩

のちあり

れを端のいの中を奥ひとすは返名のつらは返名のつら  
字のつらひを返名のつらひ中の返名終り返名は返名  
端のい中の返名とすは返名あり

音りいむ附ちよつら角の字も

らい雷たいてい大抵るい堀のち

れを端のいの中を奥ひとすは返名のつらは返名のつら  
字のつらひを返名のつらひ中の返名終り返名は返名  
端のい中の返名とすは返名あり

及名と

二



あり又廻り通ひのまかすあつとてふ文まきほり  
 半紙字まき一纏(三)まひみーうひまひまひ  
 といひつゝいといひまひまひまひ  
 母朝外あまき一(三)可考是ハキクイニウは  
 五音あまき(三)詞あまき上よりあ何ま回(一)反あまきふ  
 まあまひい(三)ういとまま(三)い文ま(三)う(三)ま(三)  
 きららま(三)る(三)ま(三)ま(三)

中のひ 比飛非悲日  
 斐鄙避肥

一中あひま(三)武略訓のま(三)あ(三)訓の口合(三)

おほー又ひあ(三)お通ひ(三)あ(三)

訓は(三)ま(三)あ(三)ま(三)あ(三)

あ(三)あ(三)價(三)や(三)あ(三)弥生(三)こ(三)あ(三)今宵(三)の(三)あ(三)

と(三)訓(三)は(三)ま(三)あ(三)ま(三)の(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)

大(三)あ(三)中(三)の(三)あ(三)

訓(三)は(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)

あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)

の(三)類(三)は(三)中(三)の(三)あ(三)

ひ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)あ(三)

思おも 傳つた 後のち 味あじ

右後名を好むと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

と云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

又いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

撰せん 序しゆ はいふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

右後名を好むと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

教きやう 辨べん 唱なう 音おん

と云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

ありと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

と云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、

奥おく のお 為井園遺委 威遺詔居

一 奥のにお 為井園遺委 威遺詔居

と云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、いふと云ふは、



叶の如きはあへの三字はくぬ二まふの二ま  
ふかよふ教ありきしんハ

給たまはま 替か 通とほ

障さや 居い 通とほ

業わざ 行ゆ 通とほ

考の教皆連ありと云ふもさく

そしめんと列の中よのくましくん

帰かへ 耕か 物もの 却かへ の教と云

きくを

通ひなくして端めんと云は右

古ふる 後ご 上かみ 苗な 鼎なべ 偏へん

膚かわ 家いえ のおとすく

中の江江 燕永衣盈 枝縁柄得

一中は江も中もあつては皆中のえと云ふもさく

見み 越こ 消け 寒か 純じゆん

覺おぼ 萌も 燃も 湛たん 念ねん の教と云

見も中のえと云

是ハヤイユエヨの五音連ありと云ふもさく

中は久しうして奥の志はさるうらもえや二つ  
ふたふたを引きまかすまうへのまよ  
ちとらふし半く捕まぬいえゆとまひを  
うらを引くまかすまかふらうら  
まかすまかす見まかすまかす  
植敷かうまかすまかすまかす  
まかすまかすまかすまかす  
おはつひうらまかすまかす  
え文字を引くまかすまかす

廠感まゑん 彫る 得る 悦喜まゑん 撰るまゑん

延引まゑん 振括まゑん 縁起まゑん  
まかすまかすまかすまかす

奥の志 惠衛會  
管繪畫

一奥の志まゑんのまかすまかす  
まかすまかすまかすまかす

まかすまかすまかすまかす

笑まゑん 醉まゑん 畫まゑん 槐まゑん 舎釋まゑん

烏帽子まゑん 越前まゑん のまかす



訓  
訓  
訓

家  
家  
家

股  
股  
股

おの  
おの  
おの

又  
又  
又

流  
流  
流

端  
端  
端

一  
一  
一

小  
小  
小

の  
の  
の

女  
女  
女

持  
持  
持

ぬ  
ぬ  
ぬ

中  
中  
中

一  
一  
一

下  
下  
下

訓  
訓  
訓

大  
大  
大

及

九



右おるとなりりハお文字ありまー仄とほよと  
 やしこと文字あり怪し平とすとおはワラち  
 上下の虫ちなくおつこの名別をさうめん  
 意くふめよ知うさー只平とささおつこの  
 かふつういよんをつけをくハ定家つて仮名を  
 鍛錬して不可と知るおとこハおとさ  
 せんかふとせうくくぬけおとさく  
 せくと訓くさうふとさうとすーそれと  
 ね尾ハおの字ありしつても尾張の仮名とつり

つういさよ中よ害お怪まふりて極めてと  
 名とつり是のさういせつふる

一 重 おしこの時ハおこ 親子 おやとつりハおこ 忌 おそこの時ハおこ

小楠 おけとけハおこ 你心 おんまをさう 曉記 あかつき

暁 おくて 競 さかみ 不及 おんハナ

帯 おひ 兄弟 あつとつり 趣 おもむく

けおと親味とくハおハまくとハ怪し只口中害の  
 怪重ふりて仮名文字の替りよ是との時  
 平と去の替りよおつこのく綴ハふくく

のくごのまへ小くくくくくくのおのまをくくくく  
 桶をあげとくくく小桶をこくくくと唱ふくくくおる  
 くくくも亦同くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 下とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 子も親族とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 おや子といくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 仮名つづみくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くるくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くるくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

藤原とおちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

うの仮名 宇羽有 胡卯

一、文字訓如下もくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 引時は女文字ありくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 のありて考知くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 引くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くみぬふ川より文字ちやハ

弱じやく細こ幸しやく懐わい

ふ文字通ひたうして下よかきりハ勢よ唱ふ

文字之例をね

東とう冬とう江かう少せう方かう

相應さうおう養生じやうじやうの例を

私よきも平と去れ之をうらうふ。又またり入るる限りてか又またりとらねし

生ぬのふれ仮名もあり

貴の字をたうととまふよたうと

つよお通あうなり何是も利とのを但あめ

おふ多くかうれのか右二ワハキクイニウ乃五

字もヒフの内おも通ひるか例をこ

ほまろく又芭蕉をよとせばくとまきてやう

とくちをうに桔梗とまらうとまらうやうと

切らるる例

古今集  
あざちう。世に某うかおはるるまもまらうりり

心の仮名 武無年 舞夢云

一むねまとの流よちや口とあひてむ字もむと

又新らるる

むね梅 むま馬 むま美 うまきた む生 うまきた

むのね本埋本む一ち月うせ宜山風のおく

むと下よわくもら音とらひてよむむ字よ月あふなる

大方らひの仮名もんとささななく

見開るん後らんの新とひてお一むい回一

あはれも詠去短無消息あはくちまうらうら

まかしく一ようふくうぬやうと後ともかとも

はふ苑とまふふとと音ん後んの心とらうらんととまん

よ子とらふく一と書の新和子お智なる銭とせふ

とらふ初も亦回一

古今集は可ふ 新後 是苑  
素牛子のち

ワの石のふ踏ちくはうらうらん時いあはれあはれあは

ゆらとあひさかた君むんをうらうらとさかほひそらうらひ

うらうらふらうらとちまはまをまをくふ露のほろをうらと

古人曰新後をつらうらんとと枯枝ときらうらうらと

書い文字は正音なるあふらうら一

素牛子はあ苑とけふこ一志とよと書んんと

ろの字ハに文字ちやうかうと

みいんれいひ小通ふ

神え 神えぬー 神えぬえぬー 神えぬえぬー

上えん 上野えんけ 上野部えんけ 上野えんけ

紙えん 紙幣えんけ

文えん 文月えんけ

是れらハ一三ムモれ連なりん

同くむよ通ふ

深うん 沈まつ 根まつ ぬるむ 頼まつ 精まつ

探まつ 慰まつ 休まつ 牙まつ

一 是れらハ一三ムモれ連なりん

ふの仮名 不布婦 符府風

一 ぶ文字訓の下おちやうとフへれ連なりん

仮名をのぶと読ん

ふ文字をぬいふくして下よちハ入る

音ふ唱る時ふとめえ

法ふ 延ぶ 甲ふ 業ぶ のおハふ 文字を

るうへは是もふとつと通ふくは

甲子とつーと留ふ之讀合とんうーと書  
美紫葉哉まんえそふとくの勢ハ非也  
引切あうほーと唱へて遣ひらるる

あふの葵あふの柳あふの泥障 是ハふとてと唱ふ  
あふの相 福あふの眠あふの冠あふの葎あふの吊  
さふのい侍 是多いふとてと唱ふと清く

はわの仮名

一 はの仮名 波ハ者半 頗端葉盤 皆同

夜半ハ 巖ハ 澄雪ハ 汀ハ 粟ハ

阡陌をて庭え 川原うり 戯たふま 依る

江波也ハ 美らふの御らり 祝ひも 叶は二季仮  
名之字うふの中より其の皆は文字とてとて  
やとちりあり他を准へてと

一 わの仮名 和王倭 皆同

渡るる 鯉るる 若狭るる 巖るる 童るる  
和るる 舞るる 別るる 吾るる 綿るる  
渡るる 鯛るる 叶は二季うふ之字仮名の終り  
うらふ字皆ハ 文あこハ 文字とてとて



お大略ハ玉お進んを字お取まわす中  
ようくんとくやんを

野の の字おたれ 三編 の字おたれ 幸業 の字おたれ

仕佐平 の字おたれ 浦稀 の字おたれ

は外 弱人 の字おたれ 稚 の字おたれ

業 の字おたれ 缺 の字おたれ 文 の字おたれ

あは の字おたれ 文 の字おたれ 門 の字おたれ

を の字おたれ

あは の字おたれ 字の中 の字おたれ

官 の字おたれ 回 の字おたれ 過 の字おたれ 郭 の字おたれ 活 の字おたれ

く の字おたれ 文 の字おたれ

ち の字おたれ の 仮名

一 ち の字おたれ の 仮名

紅紫 の字おたれ 葉地 の字おたれ 通海 の字おたれ 辻 の字おたれ

波 の字おたれ 祖 の字おたれ 味 の字おたれ 梶 の字おたれ

印 の字おたれ 蘇 の字おたれ 氏 の字おたれ

謙 の字おたれ け の字おたれ 文 の字おたれ の 仮名

く の字おたれ の 仮名

同ぢあし 傍士あし 呪まあひ 擲濁てー 喘喘しあし  
富士あし 生死あし 文まあひ 生まあし 文まあし  
鹿角菜 卸まあし けあし 文まあし

つよの仮名

一つの仮名

葛ろく 賤あし 檜標まあし 沈枝しあし  
漆あし 蒲萄まあし 粟津あし 推ろく  
水まあし けあし 文まあし  
よの仮名

教あし 木末まあし 様どい 礎あし 不堪まあし

まじかあし 坊まあし けあし 文まあし

好まあし 右あし 一つあし 仮名まあし 留あし 文まあし  
右あし 文まあし 訓あし 文まあし 留あし 文まあし

同ー 唱あし 仮名まあし 文まあし

- 一 あし 奥 まあし 翁押あし 一 かし 幸 まあし 好合あし
- 一 さし 草 まあし 宗雜あし 一 かし 當 まあし 燈答あし
- 一 あし 腦 のし 能 一 かし 芳 あし 保法あし
- 一 まし 盲 めし 毛 一 やし 陽 まあし 要葉あし
- 一 らし 老 ろし 籠臙あし 一 わし 往 ねし 應

- 一 経 けい 教勝ケウカウ
- 一 少 せう 乗ノリ 志シ 正妻セイサイ
- 一 長 ちやう 朝アサ 蝶テフ 條ジョウ
- 一 けい 料リョウ 良獵リョウリョウ
- 一 明 めい 妙ミョウ
- 一 豹 ひょう 豹ヒョウ 兵ヘイ
- 一 永 なが 影カゲ

右皆文字よりて仮名替り此在唱へ一回一とある

逐一類々と控てまつる

大形 ちぎ 通へて 勉めうゝて 仮名

- 上よる去こ 又上下ふ短 下よる去去 又上下ふ短 上下と不分て去に下よる去
- 下よる去海 上下と不分て去海 上よる去去 上下と不分て

- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去
- 上よる去 上よる去 上下と不分て去 上よる去 上下と不分て去
- 下よる去 下よる去 上下と不分て去 下よる去 上下と不分て去

右は仮名を其義よりて其形見やうと其形あり  
うゝる 仮名を其義よりて其形見やうと其形あり

況や古之經冊多乎かんとや下るる  
字一ふみあ〜うの得るも

不字可心得仮名

何阿 う于 元衣 豊 越 速 ろろ可

死起 身幾 多具 幸氣 多希 遣 化

古 内佐 志 春 須 壽 世

少勢 う曾 そ走 楚 多 堂 と土

津 多帝 亭 天 登 と冬 奈

日丹 尔尔 怒 乃乃 此能 那 者

系 母 和 一し之

八八 空盤 耳 農 飛 悲 布

婦 遍 本 戸 万 三 見 無

年 免 内 満 至 屋 美 由 羅

不 開 年 里 類 連 流 路

王 於 裳 浦 門 徒 季

いろは仮名本字 古吳陳仁錫之海篇朝宗

以呂波仁保一土 知利奴苗遠和加 与太礼曾門禰奈

良武于為乃於久 也末計不已衣天 安左幾由良美之

志比毛世寸叙 或京

名をよむ重海大沙護命法師の傳令に「涅槃四句  
 の文乃きこと同書たり」此長歌ありよみ七字六  
 けり五字一けり多書くべきの事と大和小治の事と  
 たり京乃一字八後半傳教に加へらるる事と  
 ありきやうの事と云て十二韻哉と云り

キクフツ  
 アハエヨ  
 ウム又イ  
 韻字は習ひ

五十字母

此五十字母を古儀大匠は作是也ナリ傳教に  
 一切を法を學び及切是又出さるる事あり一僅に五位  
 十行ありて堅固並に相通ユモなり一居士大竺  
 の音聲も亦是よりりて去るる事ありんもあはるる事  
 幼らるる習をばるる事及名と

國日

喉 ア ウイ マ あ い ウイ 井 い ウ ウエ う エ イ エ 江  
 ウイ ヲ 乙

喉	舌	喉	唇	舌	齒	牙
ワ <small>井</small> ウ <small>ウ</small> ワ <small>ワ</small>	ラ <small>ル</small> リ <small>リ</small> ヤ <small>ヤ</small> ラ <small>ラ</small> リ <small>リ</small>	ヤ <small>ユ</small> イ <small>イ</small> ヤ <small>ヤ</small> イ <small>イ</small>	マ <small>メ</small> ミ <small>ミ</small> マ <small>マ</small> ミ <small>ミ</small>	ナ <small>ニ</small> ニ <small>ニ</small> ナ <small>ナ</small> ニ <small>ニ</small>	サ <small>シ</small> シ <small>シ</small> サ <small>サ</small> シ <small>シ</small>	カ <small>キ</small> キ <small>キ</small> カ <small>カ</small> キ <small>キ</small>
井 <small>井</small> 井 <small>井</small>	リ <small>リ</small> リ <small>リ</small>	イ <small>イ</small> イ <small>イ</small>	ハ <small>ヒ</small> ヒ <small>ヒ</small>	チ <small>チ</small> チ <small>チ</small>	シ <small>シ</small> シ <small>シ</small>	カ <small>カ</small> カ <small>カ</small>
井 <small>井</small> 井 <small>井</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	イ <small>イ</small> イ <small>イ</small>	フ <small>フ</small> フ <small>フ</small>	ツ <small>ツ</small> ツ <small>ツ</small>	ス <small>ス</small> ス <small>ス</small>	ク <small>ク</small> ク <small>ク</small>
ウ <small>ウ</small> ウ <small>ウ</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	ウ <small>ウ</small> ウ <small>ウ</small>	フ <small>フ</small> フ <small>フ</small>	ウ <small>ウ</small> ウ <small>ウ</small>	ス <small>ス</small> ス <small>ス</small>	ク <small>ク</small> ク <small>ク</small>
エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	レ <small>レ</small> レ <small>レ</small>	エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	ヘ <small>ヘ</small> ヘ <small>ヘ</small>	テ <small>テ</small> テ <small>テ</small>	セ <small>セ</small> セ <small>セ</small>	ケ <small>ケ</small> ケ <small>ケ</small>
エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	ヘ <small>ヘ</small> ヘ <small>ヘ</small>	テ <small>テ</small> テ <small>テ</small>	セ <small>セ</small> セ <small>セ</small>	ケ <small>ケ</small> ケ <small>ケ</small>
エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	エ <small>エ</small> エ <small>エ</small>	ヘ <small>ヘ</small> ヘ <small>ヘ</small>	テ <small>テ</small> テ <small>テ</small>	セ <small>セ</small> セ <small>セ</small>	ケ <small>ケ</small> ケ <small>ケ</small>
オ <small>オ</small> オ <small>オ</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	ヨ <small>ヨ</small> ヨ <small>ヨ</small>	ホ <small>ホ</small> ホ <small>ホ</small>	ト <small>ト</small> ト <small>ト</small>	ソ <small>ソ</small> ソ <small>ソ</small>	コ <small>コ</small> コ <small>コ</small>
オ <small>オ</small> オ <small>オ</small>	ル <small>ル</small> ル <small>ル</small>	ヨ <small>ヨ</small> ヨ <small>ヨ</small>	ホ <small>ホ</small> ホ <small>ホ</small>	ト <small>ト</small> ト <small>ト</small>	ソ <small>ソ</small> ソ <small>ソ</small>	コ <small>コ</small> コ <small>コ</small>

片仮名の字

阿	加	艸	多	奈 <small>南</small>	半	末	也
伊	幾 <small>義</small>	身	知	仁	比	美	伊
宇	久	受 <small>須</small>	身 <small>豆</small>	奴	木 <small>夜</small>	牟	由 <small>幽</small>
焉	箇 <small>介</small>	世	天	孛	邊	名	焉
乎	巨 <small>戸</small>	曾	土	乃	保	毛	與

良 利 流 礼 呂  
日 岡 宇 惠 於

ンメ 氏 伝 片 寸 丁  
ン云ノ 爲 氏 トモ 合字也 法ト云日  
片トキ 合字也 寸時丁 專

再校片仮名のととて流泉の心行初えよ便書一  
と爲物にとて定まる文字と云いかつとととあり  
あもあぬへーしとてとつとつ片仮名文字と定む  
とととあつふ今の片仮名の吉備古記他也とと  
一 片仮名の教ふハハト止子子井井廿散  
メ女と三三三之ン梵字也へつ二字ハ百濟  
國の語・文とつととつとつ皆先哲乃明  
眼か久けとと井子ハ三三三等ハ平仮名  
也片仮名と非ず廿ハ廿とととととと

及  
二

中(たり)多(る)にコハ巨(く)スハ受(う)けし

一 菅相(すげ)の懸(か)りシ 甲(か)ホ 禾(こ)ワ 与(よ)

シ 示(し)子(こ)ア 七(しち)サ 一(いち)キ ア 三(さん)オ 爪(つめ)ス

か(り)傳(つた)へし 介(け)名(な)の 作(しよ)字(じ)多(た)多(た)多(た)多(た)

け(き)て 古(こ)来(きた)り 俗(ぞく)同(どう)に 習(な)ひ 申(ま)さる

文(ぶん)字(じ)あ(り)ぬ 八(はち)合(あ)点(てん)中(ちゆう)の 凡(ぼん)用(よう)人(にん)も 凡(ぼん)し

凡(ぼん)訓(くん)ふ 凡(ぼん)字(じ)と 凡(ぼん)し 凡(ぼん)て 凡(ぼん)き 凡(ぼん)こ 凡(ぼん)を

板(いた)名(な)を 捷(てい)徑(けい) 平(へい)

再(また)次(また)に 凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を



政(せい)

凡(ぼん)字(じ)を 凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

あ(り)ん 凡(ぼん)字(じ)と 凡(ぼん)し 凡(ぼん)て 凡(ぼん)き 凡(ぼん)こ 凡(ぼん)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を

凡(ぼん)字(じ)の 凡(ぼん)用(よう)の 凡(ぼん)例(れい)を



成つらうかきししゆま押字扱まぢ字  
かきつらうかきししゆま押字扱まぢ字  
次よ文字配りと金づくししゆま押字扱まぢ字  
もれぬやまほめぬあけしゆま押字扱まぢ字  
唐錦ししゆま押字扱まぢ字  
茶ももかきししゆま押字扱まぢ字  
らしゆま押字扱まぢ字  
ししゆま押字扱まぢ字  
まじ次よ吉白あふんししゆま押字扱まぢ字

お長とくししゆま押字扱まぢ字  
可しゆま押字扱まぢ字  
るよまぢ字  
まぢ字  
まぢ字

并家仙



寛政九丁巳之歲五月  
享和元辛酉初夏出来

三條通升屋所

出雲守文治郎

皇都書肆

寺町通二條

發行

橘屋治兵衛

